

第四章 「最終的解決」

120781114 漆崎昌尚

1. 東方への拡大 東方の「下等人間」

a)1939年9月 ポーランド侵攻

→ポーランド国家の壊滅

ア) エリートの排除

イ) 住人の一部を東に移動

b)消極的人口政策

食料供給問題の解決策

c)ゲルマン化 領土への入植政策

d)「東方の下等人間」への教育

ドイツ人に服従する姿勢

2. アフリカ移送計画 1937年

a) ユダヤ人のアフリカへの大量移住

b) ドイツがイギリスに敗北

→ 大西洋上の制海権の確保の失敗

→ 移住の取消

c) ソ連との戦闘の結果

東方への移動が決定

3. 「ユダヤ＝ポリシェヴィキ」との戦い

a) バルバロッサ作戦 1941年6月
→ ドイツのソ連侵攻
近代史の最も残忍な軍事行動

b) ポリシェヴィキとの戦い 1941年
ア) 国際法の尊重の不要
イ) 政治将校は即刻処刑

4. 最終的解決に向けたコンセンサスの形成

a) 司令官のナチ化された戦争観

ア) ヨーロッパ文化を救済

自分たちの任務

イ) ドイツ人が所持→名誉

b) 戦闘部隊のナチ化

大量殺戮に必要な思考様式

c) ソ連との大戦争

二つの対立→世界観の闘争

5. ホロコーストへの道

ホロコーストの質的变化

a) ドイツ人の意図的な虐待

ア) ゲットーの超過密状態

イ) 慢性的な食糧不足

ウ) 衛生設備の不備

 i) 伝染病の発生

b) ハイドリヒによる殺害の許可

ハイドリヒ：ドイツの政治家

事実上初の長官

ア) ユダヤ人

イ) 破壊工作員

ウ) 破壊分子

エ) コミンテル将校

6.対ソ戦争の膠着とホロコーストの加速

1941年9月

a) ドイツ軍部隊の軍事行動の泥沼化
ソ連領内のユダヤ人の

殺害の増加

b) ゲシュタポ長官ハインリヒ・ミュラー
ユダヤ人の国外移住の禁止

7.大量殺戮体制の完成

1941年 9～10月

- a) 大量殺戮が決定→別の要因
行動部隊の精神的負担

- b) 全滅収容所の建設
目的は大量殺戮

8. ヴァンゼー会議 1942年 1月20日 「最終的解決」の準備

- a) 大規模な方法
ラインハルト・ハイドリヒが指揮

- b) 目的はユダヤ人の絶滅

9. 退去計画

- a) ユダヤ人問題最終的解決の臨時措置
- b) 最大の重要事である実用的な技術
 - ア) 移送における組織化の技術
 - イ) 東方で試行された射殺
 - ウ) ガスによる殺害

10. 「最終的解決」が目指すもの ユダヤ人排除における障害

ユダヤ人の処理の不確定要素

ヴィルヘルム・クーベが

ハインリヒ・ローゼに宛てた手紙

ヴィルヘルム・クーベ：白ロシア知事で党員

ハインリヒ・ローゼ：オストラント特別弁務官

1 1. アラブ指導者に語ったビジョン

(ア) 1941年11月28日

ハジ・アミン・アル＝フセイニとの会談

ハジ・アミン・アル＝フセイニ：

パレスチナ・アラブの指導者

a) ハジ・アミンの目的

ア) パレスチナの民族主義

イ) 汎アラブ主義

→ ナチの支援のため成果を獲得

b) ヒトラーのビジョン

ア) ユダヤ人の始末

国民社会主義とユダヤ人の戦い

イ) 大量殺戮計画の世界規模
アラブ地域のユダヤ分子の壊滅
アメリカの参戦→世界的規模の紛争
原因はユダヤ人

1 2. ユダヤ人殲滅はいつ決断されたか

a) 1941年12月12日

アメリカに宣戦布告した翌日

ア)世界戦争を招いたのはユダヤ人
イ)再び引き起こす→殲滅

b) 1941年12月12日より前

ア)ユダヤ人のガス殺害→計画中

イ)ハイドリヒがオットーに宛てた手紙

オットー：ドイツ軍最高司令部

ユダヤ人をヨーロッパから殲滅

1 3.ヒトラーの遺言

1945年4月30日 銃と薬物で自殺

a)ユダヤ人の危険性を世界が認識
→未来の人々が我々に感謝

b)英米との戦争は要望皆無
ユダヤ人のみの責任
→大量虐殺も自己防衛行為